

アンケート結果のまとめ

1. 職種と職歴（現在の職場）。

医師 2名：15年（12年）、8年（3年）
診療所看護師 2名：25年（7年）、19年（5年）
保健師 2名：27年（10年）、8年（8年）
訪問看護師 3名：19年（4年）、17年（13年）、12年（2年）
救急救命士 6名：18年、15年、14年、10年、5年、3年、
計15名

2.

1) 現行の救急救命士資格の中で

a) 救急隊活動の中で現行+ α でやれることは？

救急搬送症例の情報共有。×6

家屋、家族構成関係性の評価。

建物内の搬送困難カ所の報告、改善依頼。

b) 救急隊活動から離れて、救急救命士資格者としてやれることは？

独居高齢者、老夫婦、障害者世帯の訪問と情報共有。×8

家庭訪問での健康チェック（保健師、訪問看護師と連携）。×5

地域ケア会議の参加。×4

服薬確認。×2

講演会開催。×2

地域住民への活動内容周知広報。×2

転倒リスク評価。

電話相談窓口の設置。

救急要請が多くなっている患者さんの自宅訪問。

2) 救急救命士の処置拡大ができたとして

a) 現行の救急隊活動の中で処置拡大した方が良い項目は？

採血、点滴。×4

薬剤投与。×2

搬送の必要性の判断。×2

インスリンの定期投与。

道尿、尿カテーテル交換。

院内での救命処置。

患者の症状緩和ができるような処置。

b) 救急隊活動から離れて、やってもらおうと助かることは？
医師の指示による創処置、褥瘡処置、輸液管理。

3) その他、救命救急士をもっと有効に活用できるアイデアは？

診療所で勤務しながら出場。× 7

救命士を消防から切り離して活躍できる場をもっと広げて欲しい。× 3

訪問診療への同行の際のドライバー兼診療アシスタント。× 2

消防と救急救命士の役割分担と住民への周知。

診療補助。

医療スタッフとして日常的に活動。

田舎では救命士資格を1割も使えていない。